

愛媛県 教育振興に関する大綱

～愛顔でつなぐ 学びの未来～

愛媛県では、次のような社会を目指しています。

- ☆ 愛情豊かな地域社会の中で、子どもたちが、時には厳しく指導され、時にはやさしく手を差し伸べられながら、周りに必要とされていることを実感し、幸福感を抱き、夢に向かって伸び伸びと成長しています。
- ☆ 知的好奇心をくすぐる学びの場や地域での様々な体験を通して、子どもや若者が、それぞれの個性を大切にしながら、確かな学力・豊かな心・健やかな体をバランスよく育み、生きる力を身に付けるとともに、社会の中で果たすべき役割や責任を自覚し、変化の激しい世界の中でたくましく挑戦しています。
- ☆ 誰もが、生涯にわたり自分の目標に向かって学習や文化・スポーツ活動に励む機会を得られ、自己の成長と暮らしの充実を実感するとともに、先人から継承されてきた豊かな文化と触れ合い、次世代へ引き継ぎ、そして、新しい愛媛文化を創造しています。

このような社会を実現することにより、若い世代が働くことに生きがいを持ち、安心して子育てができるとともに、県民一人ひとりが、ふるさとに誇りと愛着を持ち、地域課題の解決に果敢に挑むような、活力ある愛媛県を創生します。

愛媛県は、一人ひとりに輝く愛顔があふれる社会を目指して、「愛媛県教育振興に関する大綱」(2019～2022 年度)を定め、市町や関係団体等と連携しつつ、「挑戦・実行・現場主義・オール愛媛」を基本姿勢として、次の6つの振興方針に基づき、県民の皆様とともに、教育、学術、文化、スポーツの振興に取り組んでまいります。

平成31年3月〇日 愛媛県知事 中村時広

振興方針

- 1 学校・家庭・地域が連携した教育の推進
- 2 安全・安心で充実した教育環境の整備
- 3 未来を拓く子どもたちの育成
- 4 特別支援教育の充実
- 5 人権・同和教育の推進と児童生徒の健全育成
- 6 生涯学習の推進とスポーツ・文化の振興

1 学校・家庭・地域が連携した教育の推進

■在るべき姿

学校、家庭、地域が連携・協働し、社会総がかりで、未来を担う子どもたちの健やかな成長を支援しています。

■課題

近年、家庭環境の多様化に伴う家庭教育を行う上での課題、地域コミュニティの弱体化、子どもの自然・文化芸術体験活動の機会確保の必要性などが指摘されており、学校はもとより家庭、地域社会の多様な主体が連携協力して、全ての子どもたちが夢の実現にチャレンジできるよう、就学環境や就学機会の充実、開かれた学校づくりを進め、魅力ある教育環境を整備していく必要があります。

■目指す方向

社会の変化に対応した教育環境の確保に向け、創意工夫を生かした学校づくりに努めるとともに、家庭や地域の教育力の向上を図り、学校、家庭、地域、企業等が連携・協働して、未来を担う子どもたちの健やかな成長を支援します。

また、大学や専門学校等との連携のほか、幼稚園、保育所、認定こども園との交流・共同研究や、児童館などの児童福祉施設との連携を図ります。

さらに、私立学校の経営が健全かつ安定的に行われるよう、その自主性を尊重しつつ運営の支援に努めていきます。

2 安全・安心で充実した教育環境の整備

■在るべき姿

子どもたちにとって、安全・安心で充実した学びの場が確保されています。

■課題

学校内や登下校時に子どもたちが被害者となる事件・事故が発生していることや、地震等の災害、気象状況の変化への対応の必要性等から、安全教育の充実を図るとともに、安全・安心な教育環境を確保するほか、技術革新が加速度的に進む中で、超スマート社会（Society5.0）の実現や、その進展を見据え、次世代

に相応しい充実した教育環境を確保していく必要があります。

■目指す方向

家庭や地域と連携して学校安全対策を充実するとともに、学校の耐震化・長寿命化に計画的に取り組むほか、防災士の資格取得の促進などにより教職員の防災意識の高揚や資質向上に努め、自然災害や原子力災害に対する防災教育や交通安全教育など学校安全に関する教育を通じて、子どもたちに自らの命は自ら守ろうとする主体的な態度を育成します。

また、児童生徒の健康への配慮や快適な学習環境の確保の観点から、学校の教室へのエアコン設置促進に取り組むほか、教育の情報化を推進するため、教育用ICT機器等の整備に取り組み、安全・安心で充実した教育環境を確保していきます。

3 未来を拓く子どもたちの育成

■在るべき姿

自信を持って生き生きと勤務する教職員に見守られながら、知・徳・体のバランスがとれ、たくましく生きる力を身に付けた子どもたちが育まれています。

■課題

知・徳・体のバランスのとれた成長は、子どもたちが自ら考え、判断し、行動することのできるたくましい大人に成長するための基礎となるものであり、AI等をはじめとする技術革新やグローバル化の一層の進展など、複雑で予測困難な社会に対応するため、豊かで多彩な教育を充実させるとともに、家庭や学校、地域が連携した効果的な教育に取り組んでいくことが必要です。

中でも、確かな学力の定着・向上については、児童生徒の学力や学習の状況を把握、分析した上で、より実効性のある取組みを推進していく必要があります。

一方、近年の地域コミュニティの弱体化や情報化の進展など、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化する中、子どもたちの豊かな情操や道徳心を培い、自己肯定感や社会性、規範意識の向上を図るとともに、外で遊んだりスポーツや地域の文化を楽しんだりするために必要な時間や場所、仲間とのつながりを確保することが求められています。

また、教職員には、様々な教育的課題に適切に対応できる高度な実践的能力や高い倫理観が求められているとともに、安心して働くことができる職場環境を整備していくことが必要となっています。

■目指す方向

児童生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導や、家庭との連携による学習・生活習慣の確立により、子どもたちの確かな学力の定着と向上に努めます。

さらに、東・中・南予の豊かな自然や産業特性等を生かした様々な体験活動、郷土愛やグローバルな視野を養う教育を推進するとともに、自他の生命を大切に
する心や規範意識などを養う道徳教育をはじめ、情報教育や環境教育を推進
するほか、地域産業や企業の良さ、地域で働くことの魅力を実感できるよう、え
ひめジョブチャレンジU-15 事業の拡充など、キャリア教育の充実に取り組みま
す。

加えて、読書習慣や食習慣、運動習慣などの望ましい生活習慣を確立し、子ど
もたちの豊かな人間性や健康・体力など、社会で生きる力を育みます。

また、各種研修の充実等を通じて、教職員一人ひとりの専門的知識・能力や倫
理観の向上に努めるとともに、自信を持って教壇に立ち、明るく安心して働くこ
とができるよう、学校における働き方改革を進めます。

4 特別支援教育の充実

■在るべき姿

障がいのある子どもたちが一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援を
受けながら、自立と社会参加に向け、生き生きと学んでいます。

■課題

障がいのある子どもたちが安心して地域で学び、その持てる力を最大限に発
揮できるように、一人ひとりの教育的ニーズに的確に応えるとともに、自立と社
会参加に向けた特別支援教育の一層の充実が求められています。

こうした中、増加傾向にある特別支援学校の児童生徒に対する教室不足対策
や、小・中・高等学校等に在籍する発達障がいを含む障がいのある子どもへの対
応が課題となっており、教育環境の整備や、一人ひとりの障がいの状態等に応じ
たきめ細やかな支援体制の整備・充実とともに、全ての教職員が特別支援教育に
関する一定の知識・技能を有することが必要となっています。

また、共生社会の形成に向け、障がいのある子どもとない子どもが共に学ぶ仕
組みであるインクルーシブ教育システムを構築するとともに、一人ひとりの障
がいの状態等に応じた合理的配慮を提供できる教育環境を整備することが必要
です。

■目指す方向

障がいのある子どもたちが安心して学ぶことができるよう、四国中央市への
新居浜特別支援学校の分校設置や、みなら特別支援学校の校舎整備など、よりよ
い学校環境づくりを進めるほか、特別支援教育における教職員の資質向上に取
り組みます。

また、学校や家庭、関係機関等が連携した早期からの切れ目ない支援体制を整
え、一人ひとりの障がいの状態や発達の段階等に応じた指導・支援の充実を図り

ます。

さらに、一人ひとりの社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育むため、発達段階に応じたキャリア教育を推進し、障がいのある子どもたちの自立と社会参加を促進するとともに、交流や共同学習の機会を通じて、障がいのある子どもとない子どもの相互理解や地域の人々への特別支援教育に対する理解・啓発を進めます。

5 人権・同和教育の推進と児童生徒の健全育成

■在るべき姿

いじめや差別、児童虐待、子どもの貧困等、複雑化・多様化する人権問題について、県民一人ひとりが主体的に考え、互いの人権を尊重して行動しています。

■課題

同和問題をはじめとする様々な人権問題が今なお存在しており、実態に即した的確で効果的な教育・啓発の推進が求められているため、県民の人権尊重の意識を高め、様々な人権問題の解決を目指す教育を、市町教育委員会、学校、関係諸機関等と連携して、広く県民の理解と協力を得ながら総合的に推進する必要があります。

また、いじめや虐待等により生命を脅かされる事件なども発生しており、より一層、いじめの防止等の対策を総合的かつ効果的に進めるとともに、社会総がかりで児童虐待や生徒指導上の課題に向き合っていくことが必要です。

■目指す方向

あらゆる差別、偏見を解消するため、教育の中立性を確保しつつ人権・同和教育を進めるとともに、児童生徒が主体的に取り組むいじめの未然防止や、いじめの早期発見と迅速・適切な対応を図る体系的・組織的な取り組みを進めます。

さらに、不登校をはじめ生徒指導上の課題の速やかな解決と防止のため、相談活動や学校を支援する体制を充実させるほか、児童虐待の兆候を的確に察知するため、職員研修や地域啓発を進めるとともに、福祉・医療・警察など関係機関との連携を強化し、早期に対応するなど、児童生徒の健全育成に取り組めます。

6 生涯学習の推進とスポーツ・文化の振興

■在るべき姿

県民一人ひとりが、生涯にわたって自発的に学び続けたり、身近にスポーツに親しんだり、豊かな文化にふれあうことができ、地域に誇りと愛着を感じています。

■課題

元気なお年寄りが増え、若い世代にも学び直しの必要性を感じる人が増加するなど、生涯学習や国体の開催を契機として、スポーツに対する県民の関心・ニーズが一層高まる中、人生100年時代を見据え、県民一人ひとりのライフスタイルに応じた様々な機会を創出していく必要があります。

また、人口減少や過疎化の進行に伴う伝統文化の担い手不足や、文化芸術活動を支える基盤の脆弱化が懸念されているほか、歴史的な文化遺産の保存・継承が課題となっており、貴重な愛媛の文化を守り育てていくことが必要です。

■目指す方向

県民が、生涯にわたり学びたいときに学べる学習環境を整えるとともに、その学びの成果を社会に還元できる生涯学習社会の創造と、学びを通じた地域の人々のつながりづくりを目指します。

また、障がいの有無に関わらず、幅広い世代の県民が、スポーツ・文化・芸術に気軽に親しめる環境づくりや、その成果を発表する機会の充実に加え、国体の開催で得られた成果を生かしたトップアスリートの育成やスポーツを支援する機運を高めるとともに、新しい愛媛文化の創造を担う人づくりに取り組むほか、文化財を活用した地域の活性化に努めます。